

## 外国人妊産婦のためのソーシャルサポート質問票やさしい日本語版

MOS Social Support Survey Instrument Japanese version friendly for non-Japanese women before and after childbirth

○ラック チャンクンティ<sup>1</sup>, 椎葉 奈子<sup>2</sup>, 杉本 敬子<sup>3</sup>, 入山 美保<sup>4</sup>

Chankunthy Lak, Nami Shiiba, Keiko Sugimoto, Miho Iriyama,

1 筑波大学 医学群 看護学類

College of Nursing, School of Medicine and Medical Sciences, University of Tsukuba

2 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 看護科学専攻

Master's Program in Nursing Science, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba

3 筑波大学 医学医療系

Faculty of Medicine, University of Tsukuba

4 筑波大学 人文社会系

Faculty of Humanities and Social Sciences, University of Tsukuba

## 【背景と目的】

近年、日本における急速なグローバル化の推進に伴い、英語を母語としない外国人の出産が増えてきている。多様な言語を母語とする外国人妊産婦の複雑なニーズを把握するために、英語を含む多言語はもとより、やさしい日本語で表記された質問票を用いた調査が求められている。本研究の目的は、多様な外国人妊産婦への支援に対するニーズを把握するために、ソーシャルサポート質問票やさしい日本語版を開発することである。

## 【方法】

本研究では、MOS Social Support Survey Instrument(MOS-SSS) (Sherbourne, Stewart, 1991) を、やさしい日本語に翻訳した。翻訳方法は、コミティアアプローチ（複数の研究者が並行して翻訳したものを、お互いにもちより話し合う方法）を用いた。また、日本語教育の観点から、日本語能力試験 N4 程度の日本語能力をもつ外国人が返答しやすい質問表現になるように修正を加えた。その後、外国人に対する認知面接法を実施し、その結果をもとに質問票をさらに修正した。本研究は、倫理委員会（筑波大学医学医療系/第 1538 号）の承認を得て実施した。

## 【結果】

## 1. 翻訳過程での議論点

下記の5点について、研究チームにて議論を重ね、認知面接法に使用する、やさしい日本語の質問票を作成した。

- ①平易な単語の選択
- ②ひらがな、カタカナ、漢字の選択
- ③ルビつけと空間の配置
- ④日本語文法に則った表現
- ⑤イラストの挿入

## 2. 認知面接法でのフィードバック

「主語があるとわかりやすい」、「疑問文の表現は理解しやすい」等のフィードバックをもとに、文言を修正した(図1参照)。

Someone to help you if you were confined to bed

あなたの体(からだ)が元気(げんき)がない時(とき)に、助(たす)けてくれる人(ひと)はいますか?

Someone to confide in or talk to about yourself or your problems

あなたが困(こまる)時(とき)に、話(はな)せる人(ひと)はいますか?

図1. やさしい日本語版質問票の例

## 【考察】

今後、外国人妊産婦を対象としたアンケート調査による、信頼性・妥当性の検証が必要であろう。

## 【結論】

やさしい日本語版の質問票の使用は、多様な外国人妊産婦のニーズ把握の機会を拓ける可能性がある。

## 【利益相反】

本研究における利益相反はない。

## 【引用文献】

Sherbourne, C.D., Stewart, A.L. (1991). The MOS social support survey. *Social Science & Medicine*, 32(6),705-714